

全組合員の英知を結集し、闘う方針を確立しよう。

動労千葉才六回定期大会は、10月9、10日千葉厚生年金休暇センターで開催される。才六回定期大会のちとるべき課題は、80年代労働運動の進むべき道をさし示した81.3ジェット決戦5日間ストライキの成果と教訓を定着化させ、来たるべき一年間を「反合・三里塚・ジェット闘争を水路にした」80年代に通用する自前の労働運動路線の真価を發揮する闘争体制・組織体制を確立することである。そして大会を圧倒的に成功させ、10.11三里塚二期着工阻止現地に闘争への総決起を実現し、10.11を突破口に、日帝の軍事大国化・改憲攻撃に対する総反撃の火ぶたを切らなければならない。

軍事大国化・改憲攻撃と対決する労働運動を

今日、政府支配階級は、なほりかりかまゆめ戦争と反動政策を強行している。8.15発表の「防衛白書」では、「守るべきものは国家体制」「国を守るため戦つのが真の愛国心」「愛国心教育を」と公然とうち出し、従来の「専守防衛」のタテマエすらかたがわり捨て、強大な侵略軍隊「戦争のできる自衛隊をつくれ」とまで言い出している。更に、日米共同軍事演習、靖国公式参拝化、教科書検定強化、刑法改悪、保安処分導入攻撃など、戦後体制を一変させ「侵略戦争のできる国づくり」を企てた攻撃をあれいっりでうち出している。

闘う人民の砦 三里塚から総反撃を

こうした軍事大国化・改憲攻撃の根幹を断ち、労働運動の戦的再生をかちとる闘いこそあるのが三里塚二期決戦である。政府・支配階級にとって三里塚は、軍事大国化のための航空宇宙産業の強化にとって不可欠の巨大空港建設のためにも、又、軍事大国化攻撃を阻む全人民の闘いの砦としてこの三里塚を解体・破壊するためにも、今日二期攻撃に全面的にうち出してきたのである。そして、これと軌を一にして三里塚に敵対し、軍事大国化の兵隊として役割をはたすものが動労本部反動分子である。

「本部」革マル反動分子を「掃し、10.11三里塚へ！」
81.3ジェット決戦5日間ストライキに対して「軍事10足、カラーテレビ一台」と「警察の警備強化」をひきかえに、公然たるスト破りを行い、又、デッチあげ告訴をもって動労千葉を権力に売り

右翼労戦統一粉碎！

さらに労働運動に対して「行革」「労戦統一」の名をもって、総評・官公労運動の解体攻撃をつよめている。とりわけ軍事大国化に見合う国鉄づくりとして35万人体制攻撃をもって国鉄労働運動を解体せんとする攻撃の中心にあつて、国鉄労働者の決起がいまこそ求められているのだ。

いま、国鉄労働者に向われ

